

或る渦

高橋一翔

あゝ あなたは渦の中

電子が蛇のように体を拗らせ箱に潜り込み

ひと針の振動がただ連鎖するとき

出会いの賛美と故郷の棄却へと

僻地にあつて、中心にいた

端から端まで くるくる

「詩よりもバイブスの方が重要かな」

それから何度も寝ては起きて、あの部屋を過去にした

この部屋ではあなたは紙の上のインク

今や響くのは音楽だけじゃない

—— スタッカートや舌打ちや思惑、そして笑顔！

夕食後の暗がりまでおあずけした円盤

別の場所、別の時間、手にした別の円盤

永遠ではある

けど単調ではない

あゝ あなたは渦の中

目眩が猫のように瞼に取り憑き

白い箱の中にただ体を委ねたとき

出会ったことは意図と秩序の賜物だと

今際にあつて、涙はこぼれた

恥じらいも溶けるまで くるくる

「銀座、行った、行った」

それから超人的な舞を画面の中に認めた

覗き見たのは出番を待つ間にこそ築かれる平和

敵は本当は敵じゃない

——倒立や足踏みや見栄、そして回転！

私に地球儀を遣して結束

順番だからと慰め合う無意味な生の結束

永遠ではある

けど景色は変わる

あゝ あなたは渦の中

車輪が鮐のように迷いなく地を這い

体に乗せた箱が絶えずただ交差するとき

出会いも詩も受け身だと

地球にあつて、何もなかった

始まったから終わるまで くるくる

「ここにいてくれて幸せだわ」

それから流したお湯も古の試行も美も糞も循環した

寝返りの彼方にある別の昼

世界はこれだけじゃない

——時代や血縁や映画、そして秘密！

光に晒されて動き出す生物の起源

やるせない悲しみと死に物狂いで掴む喜びの起源

永遠ではある

けどいずれ終わる